



家庭教育学級の様子

かさまこども園 10月7日・14日 11月11日・18日

園長先生と話そう パーソナル診断講座



今回は、“学び”から“気持ちのリフレッシュ”に変えて『パーソナルカラー』と『園長先生と話そう』の2班に分かれて行いました。保護者の方々に自分自身を見つめる時間、自分を知る時間を作っていただきました。また、情報交換ができて有意義な時間になりました。

ともべ幼稚園 11月16日

アロマ講座 講師 松本 通子先生

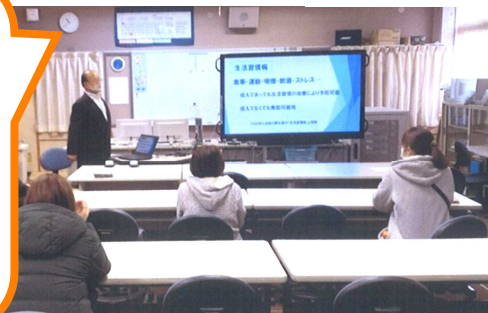


岩間第二小学校 11月27日

講演会「こころ優しい キャッチボール」
講師 先崎 武 先生



今回の講話を聴講し、「とても勉強になり、改めてコミュニケーションの大切さに気がきました。」との感想をいただきました。講話形式で催すことができ、とても良かったです。



宍戸小学校 11月11日

親子スライムづくり



岩間中学校 12月3日

親子ものづくり教室



稲田中学校 12月2日

講演会 生涯学習課 三澤 秀生



家庭教育学級アンケート結果を参考に、コロナ禍における親子のコミュニケーションや兄弟げんかの対応、子育て中のイライラや悩みについて情報交換しました。悩みを共有したり、アドバイスをし合ったりして、あっという間に時間が過ぎました。

※参加者のマスク着用や消毒、換気に加えて、参加する人数の制限や広い会場での開催など、新型コロナウイルス感染症予防対策をしっかりと行いながら家庭教育学級を実施していただきました。ご理解、ご協力をいただき、誠にありがとうございました。

裏面に続く (第2回家庭教育アンケート結果)

第2回 家庭教育学級アンケート結果

質問①

「子どもを怒ってしまうことが多いです。
何かよいアドバイスをお願いします。」

- ・怒るよりも、何か少しでもできたことがあれば褒めることを続ける。
- ・怒ってしまうのは仕方ない。その後、抱きしめてあげるなどの愛情表現をしてあげる。
- ・イライラしたら、1人になる時間を作る。トイレ・2階へ行く、外に買い物にでるなど。
- ・たまには手を抜いて、自分に余裕を作る。
- ・イライラしたら深呼吸をする等、6秒待ってから話をする。一呼吸置く。
- ・子どもの話にもよく耳を傾けるようにする。
- ・許せるラインに関しては、注意に留める。
- ・短い言葉で大事なことを伝える。時間をかけないようにする。
- ・「怒る」よりも「叱る」ように心掛ける。
- ・冷静になったときに、落ち着いて説明する。
- ・些細な事でも、笑うようにしている。
- ・自分で怒りすぎていると気づいた時は、素直に子どもたちに謝る。



質問②

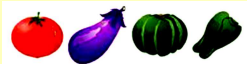
「子どもがゲーム・ネット依存で、悩んでいます。
みなさんのご家庭では、どのようにしていますか。」

- ・ゲーム、ネットを始める前に、ルールを決めさせる。
例えば、一週間分・一日分の時間を決める。
- ・どうしても約束を守れないときは、没収する。
- ・宿題・勉強が終われば、何分見られると決める。
例えば、1ページ終われば、10分できるなど。
- ・子どもと話し合って約束を作る。また、ゲーム、ネット以外の楽しみを見つける。外遊びを誘うなど。
- ・親が「みまもり設定」をして、時間を制限する。
- ・親が、スマホを子どもの前で必要以上に使わない。
- ・宿題などやることが終わったら、ゲームができる。
- ・時間を決めて、約束を守れたらシールを貼る。
- ・何でも時間を決めて、タイマーを使う。
- ・ゲームにロックをかけておく。ゲームを始めるときには、親がパスワードを入力してから行う。
- ・守れなかった時には、その都度話し合いながら、約束事を再確認していく。
- ・約束事を紙に書いて、見える所に貼っておく。

質問③

「家では、好きなものしか食べません。何かよい方法はありますか。」

- ・全部食べなくても良いので、せめて一口は頑張るように促す。
- ・ミキサーでわからなくして、他の具にまぜたり、他の食品で栄養を補ったりする。
- ・見た目を変えてみるなど、料理を工夫する。一口でも口に入れられたら、たくさん褒める。
- ・好きなものに嫌いなものも混ぜて、食べやすくする。
- ・苦手な食材を使った料理を親子で行い、一緒に食べる。
- ・近所の顔見知りの農家さんからもらった野菜なら、モリモリと食べた。野菜嫌いをなくす一つの方法なのかもしれない。
- ・食べなくても、常に食卓に出し続けていると、食べてみようかなと普通に食べることもある。
- ・自分も子どもの頃好き嫌いがあったので、子どもの気持ちが分かる。小さい一口から行う。
- ・栄養バランスについて分かりやすく説明する。食べられたときは、褒めまくる。
- ・ワンプレートにして、苦手な野菜も食べられるように味を工夫する。
- ・親が美味しそうに食べる。



質問④

「同じくらいの子をもつママ友から、反抗期を迎えて悩んでいると相談されました。アドバイスをお願いします。」

- ・「いつでもあなたの味方だよ」という思いをもちつつ、あまり干渉しすぎず、ある程度放任する。
- ・例えば、あまりにキツイ言葉が使われたときには、「ママ傷付いたよ」と気持ちを伝える。
- ・そっと見守る。本当にいけないことをした時はちゃんと叱る。
- ・親の我慢の見せどころかなど。言いなりになるのではなく、子どもの言葉を受け入れる。
- ・あたらずさわらず、反抗期が終わるのを待つ。いつの間にか終わります。
- ・「反抗期が来るほど成長させた。私たちすごいね!」と褒め合う。
- ・親の忍耐力、包容力を試されている期間。
- ・自分が反抗期だった頃はどうかだったのか、自分の親に聞く。同じ目線になりすぎず、悩みすぎない。逆に反抗期が来てよかったと思う。
- ・2人での時間をとる。手紙のやりとりをする。
- ・反抗期は、成長している証拠なので子供を否定せず、怒りすぎず話を良く聞くようにする。
- ・困った時には必ず助け、よき理解者であることを伝えて、適度な距離感で接する。

※お仕事や家事・育児などでお忙しい中、わざわざアンケートにご協力いただき、本当にありがとうございました。たくさんの方に参加していただき、感謝の気持ちでいっぱいです。

【お問合せ先】

笠間市教育委員会教育部生涯学習課 担当 三澤・仲田

〒309-1792 笠間市中央 3-2-1

TEL 0296-77-1101 内線 3 8 0 FAX 0296-71-3220

